

2018年世界パラ水泳連盟クラス分け規則変更に伴う 肢体不自由の選手の国内クラス分け見直しと適用開始について

2018年競技運営指針クラス分け規則の冒頭に、「世界パラ水泳連盟（W P S）のクラス分け規則が一部変更となっていますが、国際の動向をみて国内の対応を考えるため今年度は従来通りで対応する」と案内しましたが

順次、国際大会に参加したことにより、その動向が一定程度明確になってきましたので、12月に開催した第35回日本パラ水泳選手権大会にて国内のクラスの見直し作業を実施しました。

新しいクラス分け規則と従来規則と対比すると、主に次の点が挙げられます。

- ① ベンチテストでの評価方法は従来の方と概ね同じである。
- ② ウォーターテストの評価尺度（ポイント配分）の一部に変更があり、一部の選手はクラスに影響する可能性がある。
- ③ 泳法例外事項（CoE または RE）について、新しい規則での付与が必要。

以上3点のことを踏まえて、過去のクラス分けシートから新しいクラス分けシートに更新し、必要に応じて計測をし、併せて対象者の競技観察を実施しました。

肢体不自由の選手で国内ステイタスを保持している257名のエントリーのうち、棄権した選手を除く226名の選手のクラス見直し作業を完了しました。

見直し作業を完了した選手には新しいクラスならびに CoE(RE)、ステイタスを連盟HPの【選手・記録DB】にて1月10日頃公表しますので、各自でご確認ください。

2019パラ水泳春季記録会より新しいクラスを適用します。

同様に、国際クラス保持者で、2018年にW P S公認国際競技会での再クラス分けを受検していない選手、またはW P Sから再クラス分け不要を連絡されていない選手についても、2018年W P Sクラス分け規則を反映させたクラスおよび CoE(RE)の見直し作業を行いました。

これらの国際クラス保持者については、次回国際競技会に出場する際には2018年1月1日付けでのクラスおよびステイタスでエントリーすることとなります。

一部、W P S から再クラス分け受検不要の連絡がある場合もあります。連絡があった場合は直近の国内大会よりクラス、ステイタス、CoE(RE)を適用します。

W P S 規則変更に伴うクラス見直しの結果、再クラス分けテストが必要となった選手のステイタスには見直しRを追加し、「L R 西暦」、「J R 西暦」に変更しております。「L R 2019」は次年度の地域大会で、「J R 2019」は、次年度のジャパンパラ水泳競技会または、日本パラ水泳選手権大会にてクラス分け受検の申込みをしてください。尚、受検に際しては実施できる数に限りがありますので、申込みされても必ず受検をお約束するものではありませんことをご了承ください。

また、第35回日本パラ水泳選手権大会に参加されなかった肢体不自由の選手（国内クラス保持者）は2019年度以降の大会にて対応をしていきます。

ステイタスLレベルの方は、ご自身が登録している地域連盟の大会案内に従ってご対応ください（ご自身の登録地域以外の地域指定大会ではクラス分け見直しの対応はできませんのでご了解ください）。

ステイタスJレベルの方はジャパンパラ水泳競技会または日本パラ水泳選手権大会の大会案内に従ってご対応ください。

新しいクラスについて質問等がある場合は連盟HPより「新しいクラスについての質問」というタイトルで連盟HPの問合せページからお問合せ下さい。尚、回答はPCから送信しますので、PCメールが受信できるアドレスからお問い合わせください。

2018年12月31日

以上